

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第286回

スナフキン

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年12月27日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

人と違った考えを持つことは一向に
かまわないさ。でも、その考えを無理やり
他の人に押し付けてはいけないなあ。
その人にはその人なりの考えがあるからね。

<英語から翻訳>スナフキンは、フィン・トーベ・ヤンソンが執筆したムーミンシリーズのキャラクターであり、9冊の本のうち6冊に登場します。彼の最初の登場は2冊目の「ムーミンランドの彗星」にあります。彼はシリーズの主人公であるムーミントロールの親友であり、遊牧民のライフスタイルを送っています。

Column

世界中で愛されているフィンランド生まれの物語である『ムーミン』にはユニークなキャラクターが多く存在しますが、一際人気が高いのが今回紹介する『スナフキン』です。孤独を愛し、ムーミン谷の住人たちが冬眠に入る頃には南へと旅立ちます。そして春になるとまた戻ってきてムーミンにさりげなく知恵を授けるミステリアスな存在という印象です。みなさんの中にも“ムーミンの中ならスナフキンが好きだ！”という人も多いのではないのでしょうか。もちろん架空のキャラクターではありますが、今回の言葉の通りに生きている人だと感じます。

スナフキンの生き方や、だからこそ今回の言葉を自信を持って言えるところに憧れや共感すると同時に、『人と違った考え方』というものについて考えました。それぞれの考え方とは、“それが正解”だと信じていることです。その正解とは、これまでの様々な経験や出会ってきた仲間や大人の影響によって作られていきます。それぞれが通ってきた道が違うため、当然ですが自分と違う考えの人に出会うこともあります。意見がぶつかることもあります。それぞれの考え方の『筋』が通っていれば相手の意見を尊重し合うことも可能です。意見に対して“なるほど”と思える時はスムーズに尊重できますが、“否定された”と感じる時は尊重“せざるを得ない”ということもあります。これが今回の言葉で言う『押し付け』なのだと思います。受け手としては言われた瞬間の感情や言葉だけを切り取るのではなく、広い視野を持って意見を聞くことが重要であり、伝える側も伝え方が重要です。スナフキンは伝える時も受ける時もそのような部分における“準備”が常に整っているということなのでしょう。まさに『大人』です。

目まぐるしく変わっていく時代の中で、物事の考え方や『人生』について、考えれば考えるほど“正解”がわからなくなります。むしろ本当は正解を探すことそのものが不可能なことなのかもしれません。自分が信じていることが正解であってほしいということ“だけ”ではなく、“それぞれが思う正解”を共有しながら『最適解』を導き出すために、常に自らをアップデートしていきましょう！